☆登場人物紹介☆



<u>イワイ</u> 図書館ビギナー・猫好き



<u>えーちゃん</u> ベテラン図書館ユーザー



<u>???</u> 第9話でその名前が判明!

【あらすい】

何かのはごまりを予感させていた夏は あっさり終わり・・・いつの間にか季節は秋。 猫以外の本も借りるようになったイワイが 次に読む本とは一体・・・!? 詳しくは図書館で第9話を読んでね!



秋だから、図書館の巻



まだつづく

Voice

VOL.5

中高生版としょかんNews 2017・秋号

発行:伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社図書館流通センター 伊勢市八日市場町13-35 TeLO596-21-0077 http://iselib.city.ise.mie.jp/

今年の夏休みも図書館はたくさんのひとで賑わいました。 自由研究に読書感想文。久しぶりに図書館に来た!ってひとも多いのでは? え?宿題が終わったら図書館に用はない?ちょっと待って! これからの読書の秋におすすめしたい本がたくさんあるんです♪ 今回の特集テーマは「文豪」。授業で名前を覚えるだけではもったいない! 彼らの作品とその人柄を一緒に覗いてみよう♪

特集

文豪~令なお愛される名作とその人物像~

かつて明治から昭和にかけて活躍した「文豪」と呼ばれるひとたち。彼らの作品が今なお読み継がれているのは、その作品が面白くて、作家本人も魅力的だからだと思います。今回は数多の文豪の中から7人をご紹介します!

『舞姫』が実話だったら 結構ヒドイ! エリートだけど ショッキングな文豪

森鷗外



文久2年(1862)~大正11年(1922)

時は明治維新後の西欧諸国に追いつけ追い越せの時代。東京帝国大学医学部を卒業し、 陸軍軍医となった鷗外は、ドイツに留学。帰国後その体験を活かし『舞姫』などを発表。 アンデルセン原作『即興詩人』などの翻訳も務めるなど、幅広い活動をしました。

『阿部一族・舞姫』森鷗外/著 新潮社(913.6/モ)

プレッシャーに弱い!? ストレスにめげず がんばった ザ・文豪

夏目漱石



慶応3年(1867)~大正5年(1916)

幼いころから漢学や英語に親しみ、文部省の命でイギリスに留学した漱石。 そこで待ち受けていたのは異国での孤独、留学費不足による貧乏生活、母国からの 過度の期待…イギリスに馴染めず帰国するものの、待っていたのは妻のヒステリー… リフレッシュしたら?と勧められて書いた『吾輩は猫である』で文壇デビューしました。

『21世紀版少年少女日本文学館:2 坊っちゃん』講談社(913/二/2)

美人薄命! 短い命を燃やした 美しきひと…

樋口一葉



明治5年(1872)~明治29年(1896)

女は勉強より針仕事を覚えるべき。そんな現代より厳しい男性社会の中で 一家の大黒柱となったティーンの一葉。貧乏脱出のため小説で一攫千金を狙います。 端麗な文章力で少女や女性の心理を作品に描き、『たけくらべ』で森鷗外に大絶賛 されるも、その7か月後、肺結核のため24歳の若さでこの世を去りました。

『にごりえ・たけくらべ』樋口一葉/著 新潮社(913.6/ヒ)

コワいもの、美しいもの だいすき♡ ロマンチストな潔癖症

泉鏡花



明治6年(1873)~昭和14年(1939)

ティーンの頃、尾崎紅葉の『二人比丘尼色懺悔』に感銘を受け弟子入り。 幽霊や神仏や妖怪の存在を信じ、ロマンティックな作品の中にそれらを多く描き、 耽美派の先駆けとなりました。そんな鏡花が恐れていたのは、雷、犬、そしてばい菌! 大好物のあんぱんも両面をしっかり加熱殺菌し、自分の指が触れた部分も捨てていたそう。

『日本の文学:8 高野聖』市古貞次・小田切進/責任編集 ほるぷ出版 (918.6/二/8)

あの「蜘蛛の糸」を 手放したのは龍之介? "死"に魅入られた イケメン文豪

芥川龍之介



明治25年(1892)~昭和2年(1927)

東京帝国大学英文科入学後、夏目漱石に師事。大正5年に発表した『鼻』が漱石の 賞讃を浴び、その後『羅生門』を出版します。古典作品から児童向けまで幅広い作品を 生み出しましたが、昭和2年、自宅で睡眠薬を大量摂取して自ら命を絶ちました。 その枕元に遺された一冊の聖書は、現在も日本近代文学館に保存されています。

『羅生門・鼻』芥川龍之介/著 新潮社(913.6/ア)

雨ニモ負ケズ 風ニモ負ケナイー途な心… 愛にあふれる イ/セントな文豪

宮沢賢治



明治29年(1896)~昭和8年(1933)

質・古着商である家業を嫌い、父と衝突しつつも農林学校に進学。 ティーンの頃に出会った法華経に感動し、東京の日蓮宗団体に参加するも、 最愛の妹トシの病により再び花巻に戻り、農学校の教師となります。 多数の作品を発表しましたが生前出版された本はたったの2冊でした。

『銀河鉄道の夜』宮沢賢治/原作 清川あさみ/絵 リトルモア (726.6/キ)

太宰治



明治42年(1909)~昭和23年(1948)

ティーンの頃から作家を志すも、大大大ファンだった芥川龍之介の自殺に衝撃を受け、 自身も生涯にわたり6回の自殺未遂を繰り返しました。第1回芥川賞候補となるも落選。 そこで選考委員に長さ約4メートルもの手紙を送り芥川賞を懇願、奮闘するも受賞ならず。 その後多くの名作を生み出した無頼派の代表作家は、39歳で玉川上水にて心中しました。

『直筆で読む「人間失格」』太宰治/著 集英社(913.6/ダ)

他にも紹介しきれない文豪がたくさん!ティーンズの棚に本を揃えてお待ちしています! この秋がみんなの出会いの秋になりますように・・・! つづき



つづく

現代語訳で読むなら!

理論社出版のこのシリーズがおすすめ!

- ★「現代語訳で読む名作シリーズ」
- ★「現代語訳名作シリーズ」

今回紹介した『舞姫』『坊っちゃん』 『たけくらべ』『高野聖』『羅生門』が 現代語でスラスラ読める! この他にも名作が読みやすくなってます♪

もっと名作を読みたいキミ!

全集にチャレンジしてみよう! 分厚くて読み終わった後の達成感がすごい!

その他参考文献

- ・『文豪と暮らし 彼らが愛した物・食・場所』開発社/編 創藝社(910.2/ブ)
- 『芥川賞・直木賞150回全記録』文藝春秋(910.26/ア)
- ・『文豪の素顔 写真で見る人間相関図』高橋敏夫・田村景子/監修 エクスナレッジ(910.26/ブ)
- ・『作家・小説家人名事典』日外アソシエーツ株式会社/編集 日外アソシエーツ(R910.33/サ)※貸出不可
- ・『宮沢賢治 本当のさいわいをねがった童話作家』西本鶏介/文 黒井健/絵 ミネルヴァ書房(910/二)
- •『文學界 17年6月号』文藝春秋